

障がい児・者にも広げよう ノーリフティングケア

障がい児・者支援から見えてきたニーズ

福岡県ノーリフティングケア普及促進事業 モデル施設
1期生 介護複合施設ひばり 佐藤 亮



BEST GROUP

可能性は無限大！ 社会福祉事業のベストグループ



BEST GROUP

可能性は無限大！ 社会福祉事業のベストグループ

児童福祉

- ・相談支援
- ・居宅訪問型児童発達支援
- ・重症心身障がい児支援
- ・児童発達支援
- ・放課後等デイサービス

障がい福祉

- ・相談支援
- ・訪問介護
- ・重症心身障がい者支援
- ・生活介護 生活訓練
- ・就労継続支援B型（店舗型）
- ・就労継続支援B型（作業所）
- ・共同生活援助

介護福祉

- ・居宅介護支援
- ・訪問介護
- ・訪問看護
- ・通所介護
- ・住宅型有料老人ホーム

- ・通所介護
- ・住宅型有料老人ホーム

介護複合施設ひばり

- ・介護施設を中心に**1期生**として
ノーリフティングケアを進めてきた
- ・通所介護=在宅との関わり
- ・介護施設以外にも**在宅支援**（訪問）や**障がい者支援**など
様々なサービスをグループで展開

介護施設だけでなく、福祉全体に
『**ノーリフティングケアが有効**』
だと実感、多角的な関わりができる強み
から推進活動を行った。

取組み

1年目

介護事業

組織化

教育

周知

統一

2年目

在宅

ケアマネージャー

家族

他社

3年目

地域
社内研修

地域連絡協議会

体験会

研修

現在
4年目

障がい児
障がい者

ラウンド

家族

他部門

再
ア
セ
ス
メ
ン
ト

1年目

『ノーリフティングケアの
目的の浸透』を目標とし活動

介護複合施設ひばり

老人ホーム ⇔ デイサービス

施設間のケアの統一
福祉用具導入・研修



業務開始前にオリジナル
ノーリフティング体操



2年目

『在宅者、入所者に
より良いケアを』を目標に環境整備



在宅者へのアプローチ
各連携が必要

ケアマネージャー



家族



他事業所



在宅への働き掛け事例

- ① 退院後の状態変化（抱え上げ）
- ② 環境改善（家族の不安・研修）
- ③ 再アセスメント（状態変化）
- ④ 再環境調整（研修）
- ⑤ 在宅継続

在宅への働き掛け事例

B様 環境調整

退院後
自身での移動は困難

希望：在宅継続+複数通所

↓
2人体制での送迎希望

↓
玄関下まで抱えて移動



双方に負担大

在宅への働き掛け事例

ベッド⇔車椅子



スライディング
ボード

土間の高さ



スロープ

移乗方法の変更→ケアマネージャー
家族→変更後がイメージできない

在宅への働き掛け事例

購入でなくレンタル試験運用提案



不安
他事業所が
ボード未経験

送迎時
研修開催

移乗方法の統一
1人体制での送迎可能

在宅継続

在宅への働き掛け事例 状態変化

座位姿勢保持が**困難**
ボード使用**リスク高**



再アセスメントを実施



移乗方法を再検討

リフト設置の提案
スムーズな導入+連携



送迎時研修
【在宅継続】

3年目 『スタッフへの
教育・地域へ周知』を目標とし活動

地域への周知
当グループ全体への研修

筑豊地区ケアマネージャー
地域連絡協議会
(改善事例にて連携の重要性を伝達)



飯塚市イベント
ノーリフティングケア
技術体験会



社内研修：マニュアル・手順書を基に研修

- ① 姿勢管理と『抱え上げない介護技術』
ケアの必要性と身体の使い方
- ② グローブでの圧抜き(フラット・背上げ)横移動
- ③ 寝返りからのシーツの敷き込み・抜き取り・横上下移動
- ④ 寝返りと起き上がり(電動ベッド・フラット)
- ⑤ 立ち上がり
- ⑥ ボード移乗
- ⑦ 床走行リフト:ベッド・車椅子での上げ下ろし
- ⑧ 座位の姿勢と姿勢修正
- ⑨ ベッド上でのポジショニングの基礎

介護事業からグループ内の訪問・障がい事業へ

ノーリフティングケア実技研修(約1年間)
介護に加えて障がい・訪問等へ技術伝達(1期生)

実技研修
月一回



実技試験
(1年後)



合格者

・障がい児者施設
・訪問系事業所
各現場でノーリフティングケアを
実践

合格者は社内資格として
手当付与 (技術+意識向上)





移乗時は4人で
抱え上げ



当事業所にて体験会

手順・使う際の姿勢
についても伝達

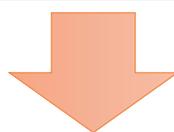


学校にリフト導入

その後の感想：一人で移乗対応可能になり、学生・職員共にきつくなりました。

4年目

『障がい児・者施設への
ラウンド・環境改善』を目標とし活動



ノーリフティングケアを必要としているのは
一部の介護施設だけでないと再認識

障がい児施設



障がい者施設



環境調整



※その他在宅でも訪問介護やご家族がノーリフティングケアを必要としている

【障がい児施設】

背景

重度の児童＝自身で動く事が困難
→抱き上げるのが**当たり前**



障がい特性・
車椅子も様々

移乗時は抱え上げ
(**選択肢がない**)



様々な支援で
不良姿勢

身体へのダメージ
(気付けてない)

【障がい児施設】

ラウンダー→導入+研修

ノーリフティング委員会
によるラウンダーの開催

不良姿勢を意識



リフトの提案

床走行リフト申請
(現場検証)

導入(補助金活用)
リフト 研修



【障がい児施設】 ラウンド 結果

移乗の**選択肢が増える** 『双方に笑顔』

児童：成長後の体重増加→安心できる移乗支援。

職員：安心して長く働ける、精神的リスクも減。



導入後の感想

抱え上げる時は表情を見る余裕がなかった。リフトになって移動時のコミュニケーションで笑顔が増えた

【障がい者施設】 ラウンド(通所・在宅)

生活介護（重症心身障がい者）
ベッド生活メイン

移乗はリフト使用
ベッド上の移動は
二人体制で抱え上げ

障がい者職員にスライディングシート・グローブの伝達



研修後、職員がご家族に伝達。
自宅にシート導入・活用

ノーリフティング委員会

障がい者事業所職員

ご家族へ(便利楽になった)



【障がい者施設】ラウンド(ポジショニング・立位訓練)

不適切なポジショニングに対する
ポジショニング方法の研修伝達



立位訓練時
職員の体の使い方



福祉用具活用時、支援時の不良姿勢改善

【環境調整】ラウンド

ほぼ車椅子移動
部屋の動線が
はっきりしない

自立に繋がる環境調整



転倒
リスク大



ノーリフティングケア視点で
アセスメント結果

- ・自力で起立可能
- ・歩行器で歩行可能 (5m)
- ・手すりを持って移動可能

- ・壁の手すり利用
- ・動線の明確化
- ・起居動作、起立動作がスムーズに

ご本人の目標
『食堂まで歩いて移動することが出来る様になりたい』

グループ内各事業所へのアプローチ方法

ノーリフティングケア

自立支援

就労B型

児童発達
支援

放課後デイ
サービス

グループ
ホーム

訪問看護

相談支援

居宅相談

- ・身体介護がない、関係ない
- ・自分は身体負担がない
- ・支援で抱える場面がない

意識改革
＋
定着

ノーリフティングケア 委員会設立（全事業所対象）



- ・不良姿勢の定義
- ・リスクマネジメント
- ・ダメージの積み重ね

委員会→各現場
イメージの伝達困難

グループ内各事業所へのアプローチ方法

部門毎に不良姿勢写真集作成 現場で不良姿勢の定義で写真撮影

児童



訪問系



グループ内各事業所へのアプローチ方法

就労B型



生活介護・GH



- ①言葉よりシンプル（イメージ容易）
- ②モデルが自身＝客観的視点・意識向上

グループ内各事業所へのアプローチ方法

各事業所でできる事は**改善**→

困難事例は
ノーリフティング委員会
で対応↓



訪問介護

ご家庭でのベッ
ド上の移動困難

スライディン
グシート研修

訪問介護

代用素材での支援
身体の使い方



現場へ



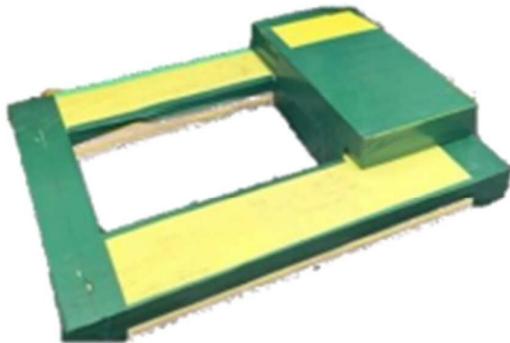
就労B型 移乗時の困難事例

高さがあり車に足を乗せることが困難

環境調整
踏み台のみ使用

車椅子から立ち上がりやすく
アプローチ困難

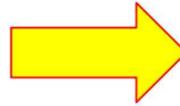
車椅子のったまま高さを調整へ



アプローチ方向統一



足から乗る事で
体重移動が楽に



中心



左側



右側

改善前



改善後



「今は怖くない」

自分で乗れて嬉しい



現在5年目 指導者育成 グループ全体へ

現状の委員だけでは全体への対応が困難



社内ノーリフティング技術認定 合格者
【 1期生 24名 】



合格者の中から 指導者候補 選出（7名）

障がい児・者通所、グループホーム、就労継続支援B型
訪問介護、老人ホーム、デイサービス等勤務者

各事業所の技術習得者の中から指導者育成へ

指導者候補の育成

指導者研修



指導者として必要な伝達力

- ①伝え方…見せ方、声、速度、相手の理解
- ②姿勢・態度…謙虚
- ③判断力…動作チェック

※また受けたいと思わせる指導テクニック

実践

社内研修指導
(2期生)



実践

外部研修同行



社内ノーリフティング技術研修 (2期生)

指導者研修 受講者

- ・指導側に回る事で更なる理解度の向上
- ・伝達テクニックの**振り返り**

各現場への実技研修・改善を行えるように成長



実
戦
経
験



指導者の育成



社内の土台が広がる

特別養護老人ホーム 筑穂桜の園様 への外部研修



【筑豊地域連絡協議会での交流】
福岡県ノーリフティングケア普及
促進事業 1期生から4期生へ
出張技術研修
外部との交流が指導者も刺激に

スキルアップした指導者が各現場へ

グループホーム（障がい児・者）

- ①ダントール+シートでの移乗変更
- ②移乗手順書作成
- ③現場職員へ移乗指導



今後は身体障がいの利用者受け入れ体制が求められる

指導者ラウンド トイレ移乗 生活介護（障がい者）

リフト使用：移乗後**体幹維持**困難
リフトで移動、左手で手すりを持ち体幹維持を行いながらの排泄。
腕に常に力が入る為、移乗後排泄に繋がらない場面あり



スタンディングマシンに変更
体幹維持が容易に
腹圧がかけやすい体制をとりやすい。
移動+排泄環境考慮した移乗方法へ
本人『排泄に集中しやすくなった』

壁を超える 指導者の活動に

福岡県ノーリフティングケア普及促進事業

1期生
介護複合施設ひばり

組織化
指導者育成

地 域

障がい児・者部門

在 宅

福岡県ノーリフティングケア普及促進事業 1期生として多角的な推進に取り組んでみて

①障がい児・者、在宅の現場においても抱え上げ、不良姿勢の場面が多くみられた。

②その対処法としてノーリフティングケア視点によるリスクマネジメントは有効。

③ただ、外部の障がい事業所等へのアプローチや、指導者育成に関して広げていくには公的協力等が重要。

・今後も介護の部門だけでなく、障がい部門や在宅へと広げる事で、よりよい福祉環境へと繋げられるよう社内での指導者育成や取り組みを継続していきたい。

